

書面表決結果

令和２年度 生涯学習推進協議会・生涯学習推進会議 合同会議
(第８回恵庭市生涯学習推進協議会・第３回恵庭市生涯学習推進会議)

【出席者】 ２４名

委員：松田、太田、松井、三科、高橋、結城、塩野、井上、加藤、向井、相馬、池川、大嶋、岡、水野、茶園

行政：市民生活課（中井主幹）、介護福祉課（茅野課長）、保健課（石上課長）、健康スポーツ課（笹川課長）、
商工労働課（山口課長）、花と緑・観光課（小路課長）、読書推進課（黒氏課長）、郷土資料館（原田館長）

【欠席者】 ０名

１．合同会議

１-①【報告】パブリックコメント結果について

[質問・意見等]

A：意見に対しての対応に問題はない。

B：感想としては意見が少ないと感じる。

１-②【審議】パブリックコメントを反映した基本目標の表現について

可決

[賛成] ２２名

委員：松田、太田、松井、三科、結城、塩野、井上、加藤、相馬、池川、大嶋、岡、水野、茶園

行政：市民生活課（中井主幹）、介護福祉課（茅野課長）、保健課（石上課長）、健康スポーツ課（笹川課長）、
商工労働課（山口課長）、花と緑・観光課（小路課長）、読書推進課（黒氏課長）、郷土資料館（原田館長）

[反対] ０名

[無回答] ２名

高橋、向井

[質問・意見等]

A：変更後の表現で、問題視されている部分は解消されたと思う。

B：生涯学習の目的は何かの定義が欲しい。基本目標が「地域コミュニティ活動の推進」というのは、
方法論のように感じる。

C：どのように表現を変更できるのか、あまりイメージができなかった。

１-③【報告】評価方法、スケジュールについて

[質問・意見等]

A：第５期基本計画の事業評価は、対話を重視している。委員と行政担当者が個別に対話することで、
事業の本質が鮮明にイメージでき、評価の精度も向上すると思う。

D：評価担当者が個別に２月上旬まで行政担当者と対話できるとのことだが、担当者同士（行政含め５
～６人）で集まり、情報交換をすることはできないのか。

1-④【審議】令和3年度評価対象事業の選定について

[質問・意見等]

A：対象事業の年度連続評価は、事業の目的や内容、結果の向上に繋がると思う。全体的にバランス良く選定されている。

2. 推進協議会

2-①【報告】令和2年度事業評価 委員評価結果について

[質問・意見等]

A：令和2年度はウィズコロナ（共存）での開催であり、特異な環境での開催・評価は大変なご苦勞があったと思う。評価には多様な視点でとらえることも必要であり、他の委員の意見を参考にすることで、固執せず精度の高い評価に繋がると思う。

E：数字での評価よりも言葉で示されている方がわかりやすく、それぞれの委員の視点が興味深い。次年度も楽しみにしたい。

F：コロナ禍という非常に厳しい状況下、事業開催の対応等を工夫して、それぞれの立場で活動したことに敬意を表したい。

2-②【審議】令和2年度「かつてに表彰」表彰基準の追記について

可決

[賛成] 16名

松田、太田、松井、三科、高橋、結城、塩野、井上、加藤、向井、相馬、池川、大嶋、岡、水野、茶園

[反対] 0名

[質問・意見等]

A：評価対象の基準については問題ないと思う。

E：スケジュールはずっと気になっていたので、年度内に行うことができるようになり嬉しい。

B：個人表彰の審査は慎重にされたい。

その他

[質問・意見等]

E：調整会議も含め、委員や行政担当者とも話し合いを重ねることができた1年だった。ありがとうございました。